

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2007年5月)

発表日2007年7月11日(水)

～所得収支の黒字額が大きく拡大～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭
TEL : 03-5221-4525

(%)

		原数値				季調値				
		経常収支				経常収支				
		貿易・サービス収支		所得収支		貿易・サービス収支		所得収支		
		前年比	前年比	前年比	前年比	前期比	前期比	前期比	前期比	
06	1-3月期	18.5	▲ 13.5	▲ 28.2	42.0	▲ 4.9	▲ 10.5	▲ 9.4	4.1	
	4-6月期	▲ 3.0	▲ 24.5	▲ 17.4	15.8	▲ 7.2	▲ 15.6	▲ 4.2	▲ 2.2	
	7-9月期	11.4	6.0	▲ 0.1	17.6	4.6	5.3	1.0	3.6	
	10-12月期	6.4	13.6	12.1	6.3	19.9	56.2	38.0	1.5	
07	1-3月期	23.6	45.7	51.9	12.1	▲ 1.6	▲ 2.4	2.6	1.0	
06	4月	▲ 17.7	▲ 59.4	▲ 32.8	12.7	▲ 23.5	▲ 49.5	▲ 27.2	▲ 9.9	
	5月	16.8	29.5	11.1	15.8	21.5	122.8	49.7	▲ 6.8	
	6月	▲ 6.4	▲ 13.3	▲ 12.2	23.7	▲ 3.0	▲ 29.5	▲ 20.1	15.0	
	7月	5.1	▲ 11.8	▲ 8.3	22.9	3.2	19.9	16.1	▲ 4.6	
	8月	21.1	361.8	36.2	11.2	▲ 1.0	4.5	2.1	▲ 3.9	
	9月	10.9	6.5	0.2	20.3	▲ 6.2	▲ 39.0	▲ 34.8	12.8	
	10月	6.3	▲ 34.1	▲ 18.5	37.0	21.8	83.3	55.1	0.5	
	11月	20.8	67.3	48.4	▲ 6.6	6.0	46.4	45.2	▲ 16.3	
	12月	▲ 4.7	14.3	15.1	▲ 9.5	▲ 2.4	▲ 23.5	▲ 21.4	19.6	
	07	1月	43.3	-	-	16.3	▲ 7.4	16.1	21.8	▲ 21.6
		2月	4.1	1.2	2.6	7.3	▲ 17.2	▲ 44.6	▲ 39.0	12.2
		3月	35.7	59.1	60.3	13.2	63.3	104.7	71.0	36.5
4月		50.3	76.2	34.7	41.5	▲ 4.7	▲ 13.4	▲ 6.9	0.4	
5月		31.1	4.0	1.0	36.6	▲ 2.3	▲ 13.3	▲ 13.0	3.3	

(出所)財務省、日本銀行「国際収支統計」

○5月の経常黒字額は前年比+31.1%

5月の経常黒字額は前年比+31.1%の2兆1,336億円(原数値)と5ヶ月連続で黒字幅が拡大した。黒字幅が拡大した主因は所得収支の黒字幅が大幅に増加したことであるが、サービス収支の赤字幅が縮小したこと、貿易収支の黒字額が前年を上回ったことも経常収支を押し上げた。

○円安による受取の増加もあって所得収支の黒字額が高水準

貿易収支の黒字額は前年比+1.0%となった。輸出は、前年比+14.6%(前月同+7.3%)と前月から伸びが拡大した。輸出を主要地域別にみれば、対米国が前年比+0.4%(通関ベース)と弱めの動きとなっているものの、対EUは同+17.9%、対アジアは同+18.6%と高い伸びを維持している。全体としてみれば、減速しつつも輸出は堅調さを維持しているとの判断に変わりはない。また、輸入についても前年比+16.0%(前月同+3.2%)と伸びが拡大した。5月のドル・円相場は月中平均レートで前年比8.3%の円安であり、ユーロ・円相場では同14.5%の円安だったため、輸入金額が押し上げられた。輸出は堅調だったものの、輸入も伸びが高まったことから貿易黒字額は小幅増加となった。

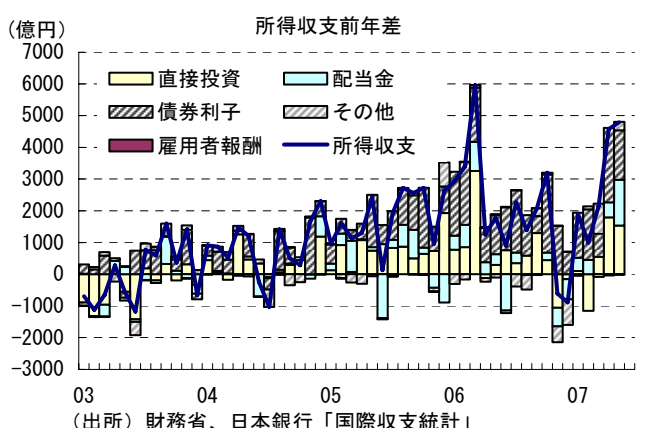
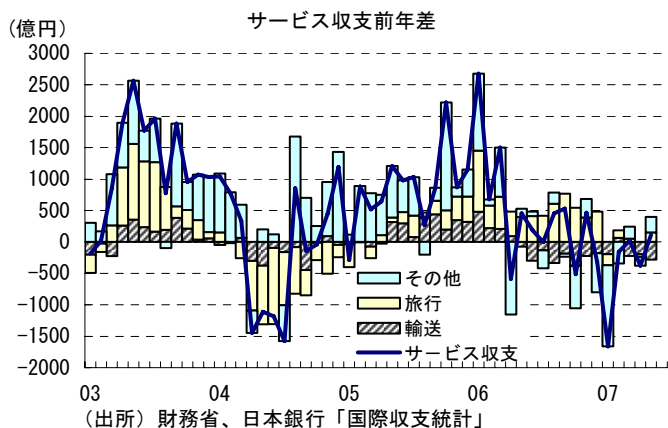
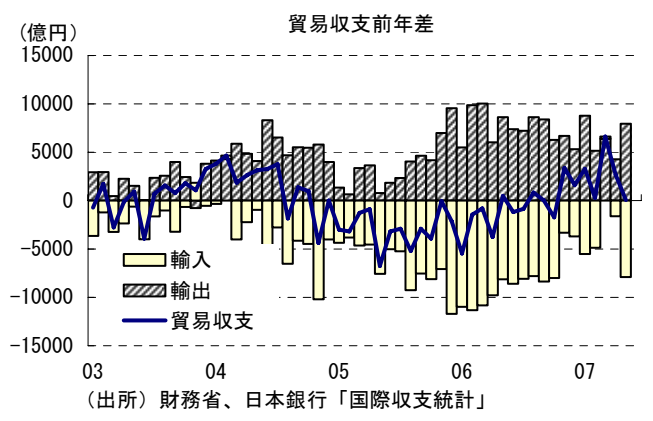
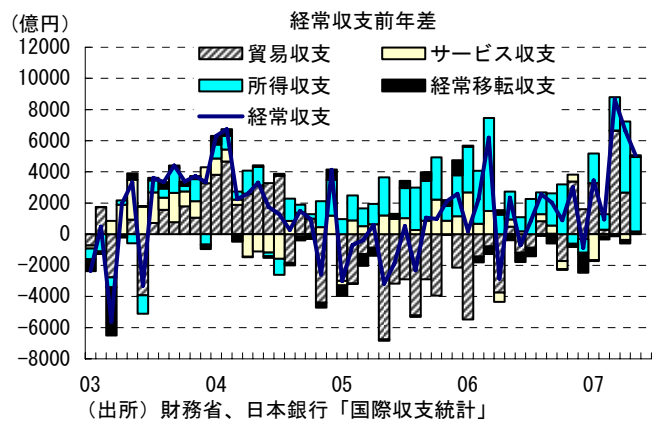
サービス収支は、「輸送」の赤字幅が拡大したものの、「旅行」の赤字幅が縮小し、「その他サービス」の黒字幅が拡大したことから全体の赤字幅は縮小した。「輸送」は燃料価格の上昇の影響もあって「海上輸

送」「航空輸送」の赤字幅が拡大した。「旅行」については前年と比べて外国人の入国者数が増加し、日本人の出国者数が減少したことから赤字幅が縮小した。「その他サービス」の黒字幅拡大は「特許等使用料」の黒字幅拡大によるものである。

所得収支の黒字額は前年比+36.6%と5ヶ月連続で黒字幅が拡大した。季節調整値でも過去最高を更新してかなりの高水準が続いている。内訳をみれば、「直接投資収益」の「配当金・配分済支店収益」や「証券投資収益」の「債券利子」、「配当金」等が増加に寄与した。海外への証券投資が傾向として活発なことや海外子会社の業績が好調なことが主因であるが、円安によって受取が増加していることも所得収支の黒字幅拡大に少なからず寄与していると考えられる。

○経常収支の黒字額は先行きも増加基調で推移

減速傾向にある米国景気については、このところ復調を示す指標がみられている。今後、世界景気の拡大ペースが強まってくる公算は大きく、輸出を取り巻く環境は良好と言える。加えて原油価格は高水準であるが、前年対比では伸びが大きく鈍化する見込みであることも勘案すると貿易収支の黒字額は先行きも増加基調が持続すると考えられる。また、所得収支についても黒字額の拡大傾向が続くとみられる。日本は利上げ局面にあるが、諸外国との内外金利差はなお大きく、外国証券投資への選好が大きく減退する可能性は低い。対外資産の増加傾向が続く見込みであり、急速に為替が円高に振れることがなければ所得黒字額は緩やかながらも増加基調で推移すると考えられる。貿易収支、所得収支ともに黒字幅は拡大傾向で推移するとみられることから、経常収支の黒字額は先行きも増加基調で推移すると考える。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。